

300万円以上リフォームのきっかけは「住設の老朽化」

リクルート住まいカンパニーは、300万円以上の住宅リフォームの実施者を対象に行なったリフォーム選択における意識や行動を調査の結果を公表した。リフォームのきっかけは、戸建てとマンションの全体で、「住宅設備が古くなった・壊れた」(40.6%)、「家が古くなった・老朽化した」(33.4%)、「設備の使い勝手に不満がある」(27.9%)が上位3位に入る結果となった。これらに加えて、戸建てのみの調査では、4位に「外観の見栄えが悪くなった」、マンションのみの調査では、4位に「中古住宅を購入した・する予定(だった)」、5位「間取りに不満がある」と間取りに関するものであった。リフォームをした部分は、全体では「キッチン(台所)」(58.5%)、「浴室」(57.1%)、「トイレ」(56.5%)、洗面室(56.3%)と水回りが上位を占めた。この他に、戸建て住宅では「外壁」や「屋根」など外装に関わるもの、マンションでは「リビング」、「ダイニング」、「寝室」といった内装や間取りに関するものが上位となっている。リフォーム対象住居の築年数は、「20～30年未満」(35.3%)、「30～40年未満」(26.9%)と続き、平均年数は26.3年であった。

情報提供: 新建ハウジング

YKK AP、「ピタットKeyシステム」を搭載した「電気錠付ルシアス門扉」を発売

YKK AP株式会社は、非接触カード「シール」やスマートフォンなどで施解錠できる「ピタットKeyシステム」を搭載した、「電気錠付ルシアス門扉」を2014年12月1日に発売します。「ピタットKeyシステム」は、玄関ドアのハンドルや門扉本体の読み取り部に非接触カード(シール)、スマートフォン、電子マネー等を近づけることで施解錠するAC100V式電気錠です。また、モニターホンや携帯電話と連動することでカギの遠隔操作を可能にする拡張性も備えています。カードキー3枚とシールキー2枚を標準装備。カードキーは財布やパスケースに入れたままでも作動します。シールキーは貼るだけで、携帯電話などお気に入りの小物をカギとして活用できます。また、「おサイフケータイ」や「楽天Edyカード」もカギとして使用可能で、普段お持ちになっている携帯・スマートフォンや電子マネーが玄関や門扉のカギになるので、わざわざカード／シールキーを別に持ち歩く必要がありません。

情報提供: YKK AP

12月のフラット35金利、1.56%で5カ月連続の下降

住宅金融支援機構は12月1日、民間金融機関が提供する「フラット35」の2014年12月の適用金利を公表した。融資率9割以下、返済期間が21年以上35年以下の主カタイプの金利幅は1.56%(対前月比▲0.05%)～2.19%(同▲0.06%)、最頻金利は1.56%(同▲0.05%)で5カ月連続の下降となった。最低金利および最頻金利は史上最低水準をまた更新した。返済期間が20年以下の金利幅は1.29%(同▲0.05%)～2.11%(同)。最頻金利は最低金利と同じく1.29%(同▲0.05%)で、こちらも最低水準。

情報提供: 新建ハウジング

フクビ化学、住宅向けクロス対応見切「クロス見切C-3TM」「幕板見切6T」を発売

住宅のクロスのシワ・浮きを予防、石膏ボードの上から施工のため省令準耐火構造にも最適な見切材『クロス見切C-3TM』『幕板見切6T』2アイテムを、平成26年12月1日より全国発売致します。石膏ボードの縁を切らずに上から施工する見切材のため省令準耐火構造の木造住宅にも最適です。クロス見切C-3TMの主な特長は3.5mm目透しにてよりクロスの粗を目立たせなくし、プライマー付きでパテとクロスをしっかり接着し、出隅、入隅役物により簡単にスピード施工できる。幕板見切6Tの特長は上下2つの部材が上下左右に可動してクロスの上を予防し、プライマー付きでパテとクロスをしっかり接着し、見付巾6.2mmという小見付けのシンプルな意匠である。

情報提供: フクビ化学工業

2014年注文住宅動向

株式会社リクルート住まいカンパニーは、注文住宅の建築者・検討者を対象に調査を実施しました。2014年の調査結果の一部を抜粋してご報告申し上げます。家づくり全体の動向トレンドについては、建築者(全国)の建築費用は平均2,804万円で対前年で127万円上昇。頭金は平均932万円、親からの贈与額は同332万円、二世帯住宅建築者の親からの贈与額は平均585万円。消費税増税前後でのカスタム属性の変化については、建築者(全国)のうち、増税前契約者の建築費用は平均2,843万円。増税後契約者に比べ、248万円高かった。建築者(全国)のうち、建て替え比率でみると増税前契約者の建て替えは22.1%。増税後契約者の18.3%に比べ、増税前契約者では建て替え比率が3.8ポイント高かった。多世帯住宅の動向トレンドについては、検討者(全国)における多世帯住宅の検討割合は23.4%。多世帯住宅の検討理由は「親の老後のことを考えたから」が最多。建築者(全国・多世帯住宅)のうち、「住居費や生活費が削減できた」子世帯は38.6%。「削減できた」と答えた子世帯のうち、一番高い削減金額の項目は住居費で平均で29,000円。

情報提供: リクルート住まいカンパニー